

**サプライチェーンの課題に直面し、
企業は高度なテクノロジーに
多額の投資を進めている**

Blue Yonder による
2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイ
～SCM担当幹部調査レポート～から得られた知見

目次

はじめに：複雑で混乱した状況の中、 企業はテクノロジーに注目	1
サプライチェーンにとって最も重大な課題：混乱	2
一方で、コストの増大により利益は縮小	3
サプライチェーンとロジスティクスの部門にさらにのしかかる 持続可能性へのプレッシャー	4
正解は何か：高度なテクノロジーに投資する企業	5
将来を見据えて：AI への大きな投資	6
将来の投資対象として最も重視される機能分野	7
本調査について	8
結論：テクノロジーによって実現する明るい未来	8



複雑で混乱した状況の中、 企業はテクノロジーに注目

Blue Yonder の目標は、お客様の実際のニーズを満たす実用的な付加価値のあるテクノロジーソリューションを提供することです。これは、お客様のニーズを完全に理解することから始まります。Blue Yonder はユーザグループ、カスタマー・アドバイザリー・ボード、業界カンファレンスへの出席、そしてもちろんお客様との1対1のミーティングを通じて、ほぼ毎日、お客様と交流しています。Blue Yonder の年次カンファレンスである ICON では、数百名にのぼるサプライチェーン担当幹部がインタラクティブなフォーラムで一堂に会し、その参加者全員が互いから学びを得ることができます。

Blue Yonder は過去数年間にわたり、お客様のニーズを把握するための取り組みの一環として、サプライチェーンとロジスティクスの部門を担当する幹部の年次調査を実施してきました。今年は初めて、Blue Yonder が国際的な顧客ベースのニーズに対応していることを確認するために、世界中の600名の幹部を対象に含めて、この調査を全世界規模で実施しました。

この eBook では、Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイの結果をまとめています。この調査によって、全世界のビジネスに影響を及ぼす一般的な多くのトレンドと、世界共通のさまざまな課題が明らかになった一方で、注目に値すると考えられる国や地域に特有の興味深いトレンドもいくつか取り上げます。

今年もまた、サプライチェーンチームが直面した主な課題として、継続的に起こる混乱、コストの高騰、持続可能性へのプレッシャーが含まれています。驚くべきことに、世界中の回答者の84% が、材料、労働力、輸送能力の不足など、サプライチェーンの重大な混乱が継続的に発生したと報告しています。

従来にも増して、今年の調査では、確実なソリューションは高度なテクノロジーの適用であることが強調されました。半数を超える (51%) 企業が、昨年、サプライチェーンに1,000万ドルを超える投資をしており、その投資の多くは人工知能 (AI) などの高度な機能に向けられていました。回答者の成熟度と導入率は毎年高まっているようです。今年の調査では、半数を超える組織が AI と機械学習 (ML) を利用して、サプライチェーン計画 (56%)、輸配送管理 (53%)、注文管理 (50%) のパフォーマンス向上させています。

本書を読み進め、Blue Yonder が得た知見をご確認ください。世界中のサプライチェーンチームが、将来の成功に向けて高度なテクノロジーに大きく賭けていることは明らかです。これらの投資から最大の利益を引き出す、業界をリードするソリューション、サービス、提供モデルの用意は Blue Yonder にお任せください。

Terence Leung

Blue Yonder

ソリューションおよび業界マーケティング担当

グローバルシニアディレクター

サプライチェーンにとって最も 重大な課題：混乱

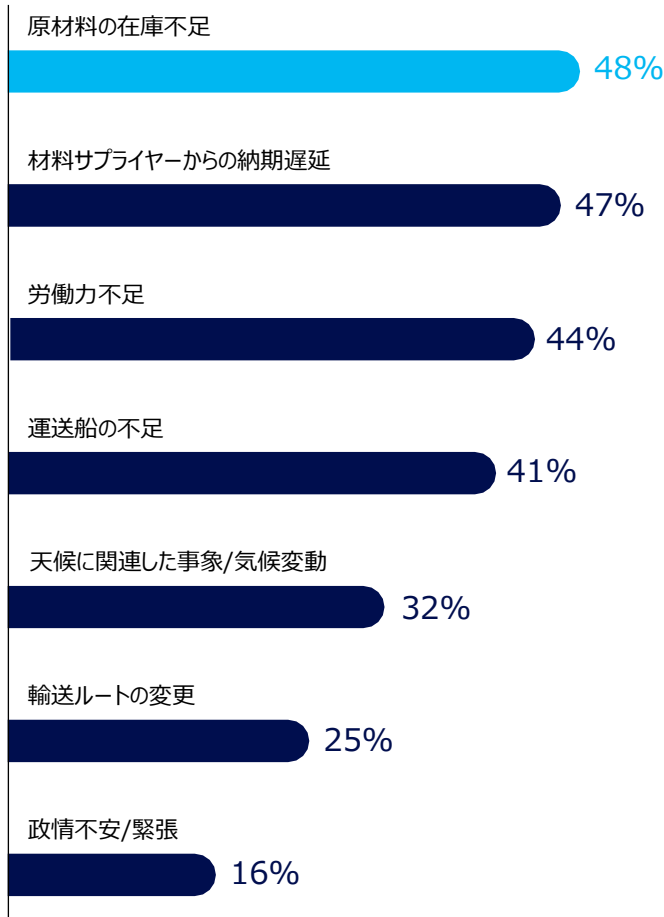
Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイでは、世界のサプライチェーンチームにとって最も大きな課題が、引き続き混乱への対処であることが明らかになりました。今年は、回答者の84% が、前年、組織でサプライチェーンに混乱が発生したと回答しており、2023年の87%、2022年の88% からわずかだけ減少しました。

これらの混乱の主な原因は、原材料の不足（幹部の48%が回答）、サプライヤーからの納品遅れ（47%）、労働力不足（44%）、輸送能力の不足（41%）などです。また、極端な気候、ルートの変更、政情不安も挙げられています。

こうした混乱は、回答者のサプライチェーンにどのような影響をもたらしたのでしょうか。

最も大きな影響は、顧客への納品遅れ（幹部の42%が指摘）、生産の停止（42%）、法規制遵守の問題（39%）、評判の悪化と金銭上の損害（38%）、顧客の需要を満たせないこと（38%）でした。

このように重大な影響が生じることから、サプライチェーンのレジリエンスとアジリティを確保することが、世界中のサプライチェーン担当幹部にとって最も重要な懸念事項であることは明らかです。



一方で、コストの増大により 利益は縮小

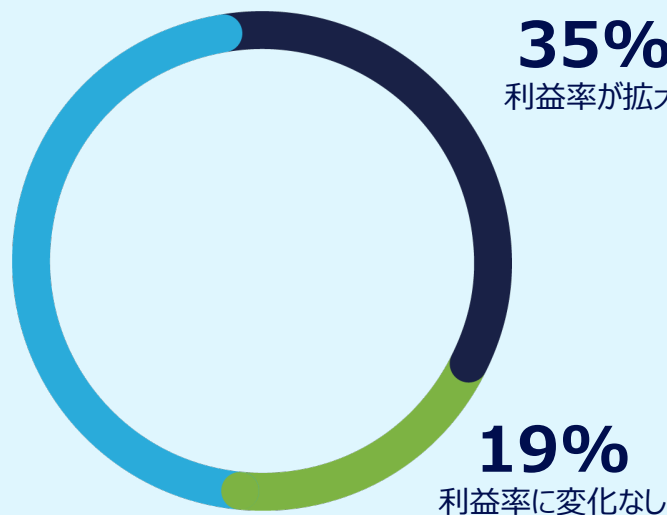
混乱の頻発に加え、サプライチェーン組織は世界的インフレによるコストの上昇にも直面しています。物価の高騰は、主に輸送コスト（回答者の38%が挙げている）、材料コスト（34%）、人件費（14%）、在庫コスト（8%）に影響を及ぼしています。

混乱の頻発が、コスト増大と相まって、企業の利益率の低下を招いています。世界中の回答者の46%が、過去1年間で利益率が低下したと回答しています。米国の企業のうち、60%で利益

の減少が起きています。これは、どの国や地域よりも高い比率です。

過去1年間で利益が向上したと答えた幹部は、全世界の幹部の約3分の1（35%）に過ぎません。サプライチェーンチームにとって困難な時期であることは明らかで、インフレが利益率に及ぼす影響はほとんど制御できません。

46%
利益率が縮小



19%
利益率に変化なし

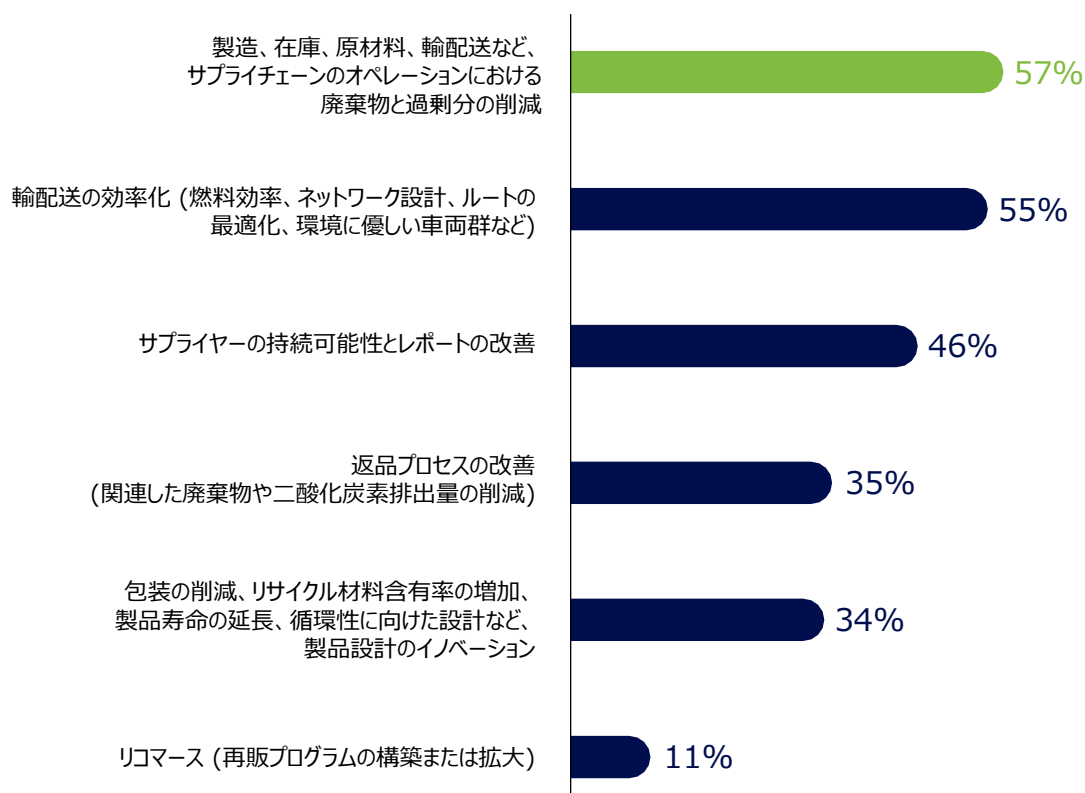
サプライチェーンとロジスティクスの 部門にさらにのしかかる 持続可能性へのプレッシャー

混乱とコスト面でのプレッシャーに対処するだけでは不十分であるかのように、Blue Yonder の調査に参加したサプライチェーン担当幹部は、3つ目の重要課題として持続可能性を挙げました。調査参加者の半数近く（44%）が、前年に自社で持続可能性の取り組みを強化したと回答しています。回答者のほぼ半数（47%）が持続可能性への投資を維持していて、これらの取り組みを縮小したのはわずか9% でした。

サプライチェーンチームが目標としている具体的な持続可能性への取り組みは何でしょうか。最も重視されている分野は、廃棄物と過剰分（製造、在庫、原材料、輸配送など）

の削減で、幹部の57%が挙げていました。半数超（55%）は、燃料の使用効率、流通網の設計、輸配送ルート最適化とともに、環境に優しい車両群の構築により、輸配送効率の向上に重点を置いて業務を行っていると回答しました。

持続可能性に関するその他の投資分野として回答者が挙げていたものには、サプライヤーの持続可能性の向上（46%）、返品プロセスの改善（34%）、包装の削減や循環性に向けた設計などの製品イノベーションの推進（34%）などがあります。



正解は何か： 高度なテクノロジーに 賭ける企業

複雑で混乱した状況に直面し、企業はサプライチェーンへの投資を強化しています。Blue Yonder の調査によれば、高度なテクノロジーに支えられたサプライチェーンが輝くときが来ていることは明らかです。

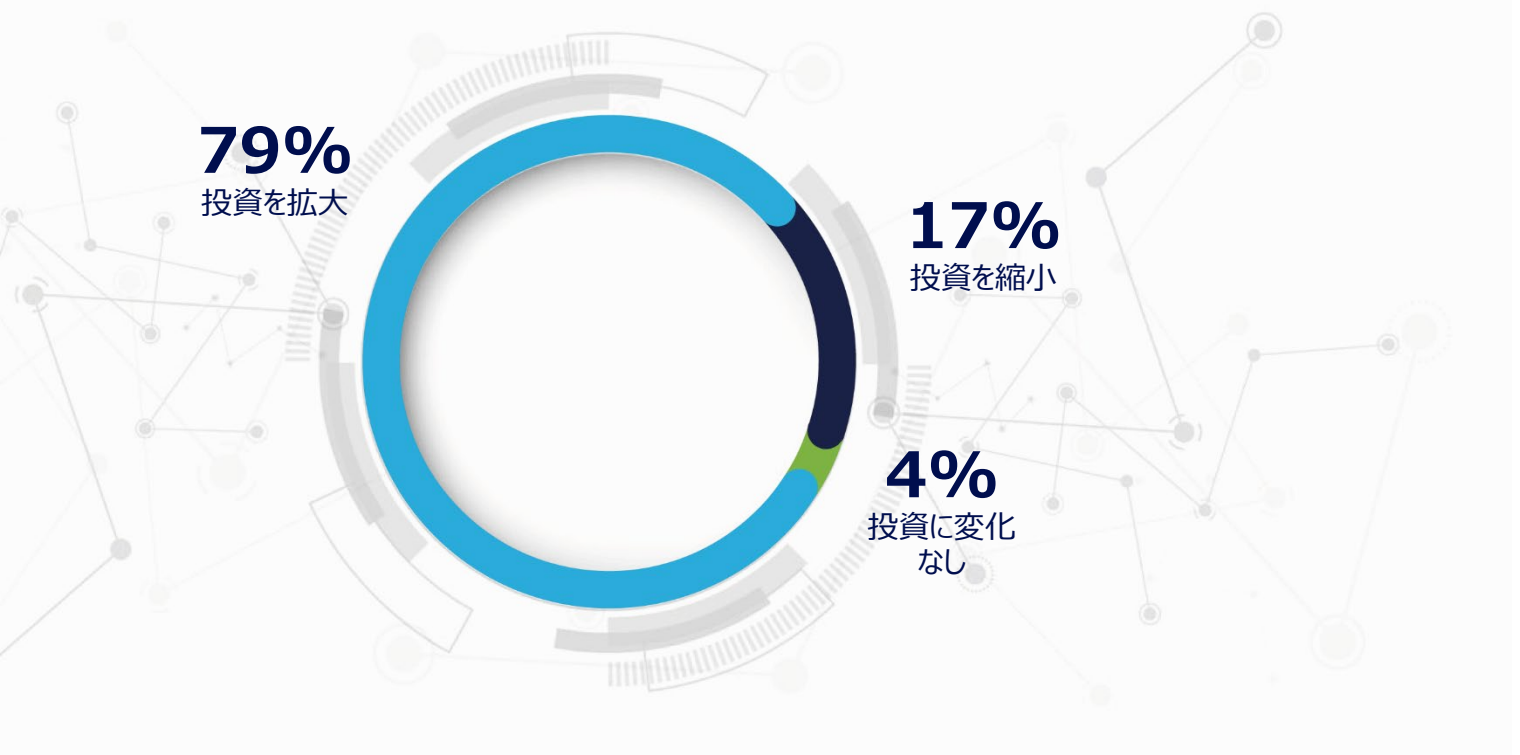
調査に参加した企業の10社中8社程度(79%)が、過去1年間にサプライチェーンのオペレーションへの投資を増やしています。企業は大きな賭けに出ていて、半数以上(51%)がサプライチェーンの改善に1,000万ドルを超える額を投資しています。

ここ数年の傾向では、米国の回答者の間でサプライチェーンへの投資に特に急激な成長が見られます。2022年には、調査に参加した米国企業のうち、投資額が1,000万ドルを超えていた企業は

わずか24%でした。2年後には、その数値は2倍を超えて49%になります。

回答者の投資分野の上位を占める多くは、End to Endのサプライチェーンへの高度なテクノロジーの導入に関連しています。幹部の4割(41%)が自社でAIベースのテクノロジーを導入していると答えた一方、25%はAI以外のソリューションを追加していると述べています。調査参加者の37%が、デジタル変革に重点的に投資しています。

サプライチェーンへの投資の成果について質問したところ、上位を占めた回答は効率の向上(53%)、収益の増加(37%)、市場シェアの拡大(37%)、混乱の減少(37%)、収益性の向上(29%)でした。



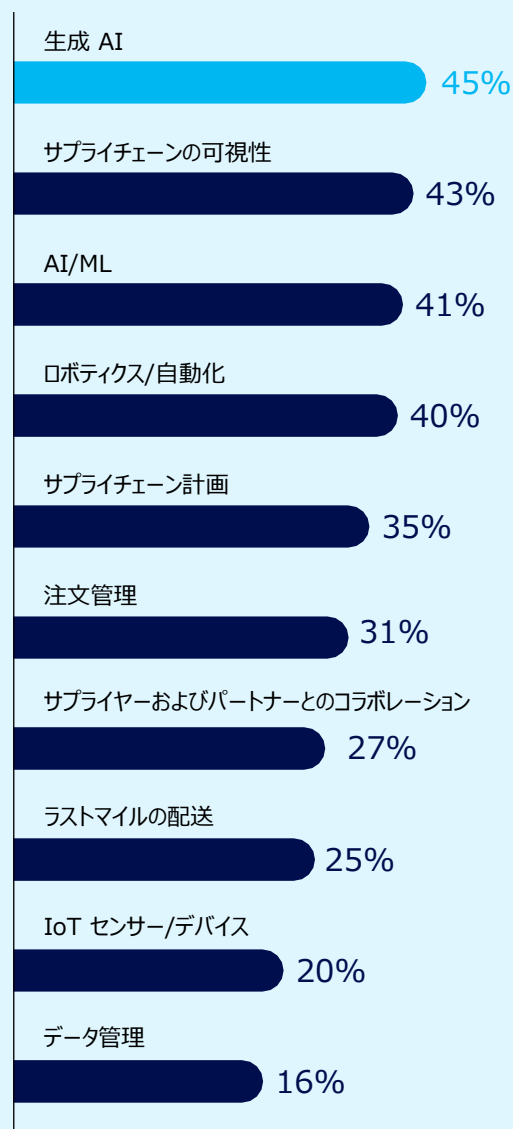
将来を見据えて： AI への大きな投資

AI は単なる業界の流行語ではありません。Blue Yonder の調査から、サプライチェーンチームが将来を見据えるとき、AI への投資の拡大が重要な戦略と考えられていることは明らかです。

今日の複雑で混乱したビジネス状況で利益を上げながら業務を進めることは、手作業での分析や人間の認知によって対処できる範囲を超える問題になっています。AI のパワーを活かすことにより、サプライチェーンとロジスティクスのオペレーションチームが混乱を特定して解消し、コストとサービスレベルのバランスを取り、一貫して持続可能な選択を行い、労働力や在庫から車両や設備に至るすべてのリソースからの最大の利益を引き出すことができます。

今回の調査では、半数を超える組織がすでに AI と ML を採用し、サプライチェーン計画 (56%)、輸配送管理 (53%)、注文管理 (50%) のパフォーマンスを向上させていることが明らかになりました。驚くべきことに、回答者の80% が、人工知能のサブセットである生成 AI の導入に向けた組織的な取り組みを実施していると述べています。これらの調査参加者のうち91% は、サプライチェーンのプロセスと意思決定の最適化に生成 AI を活用することが、"まあまあ効果的" または "非常に効果的" であることが分かったと答えています。

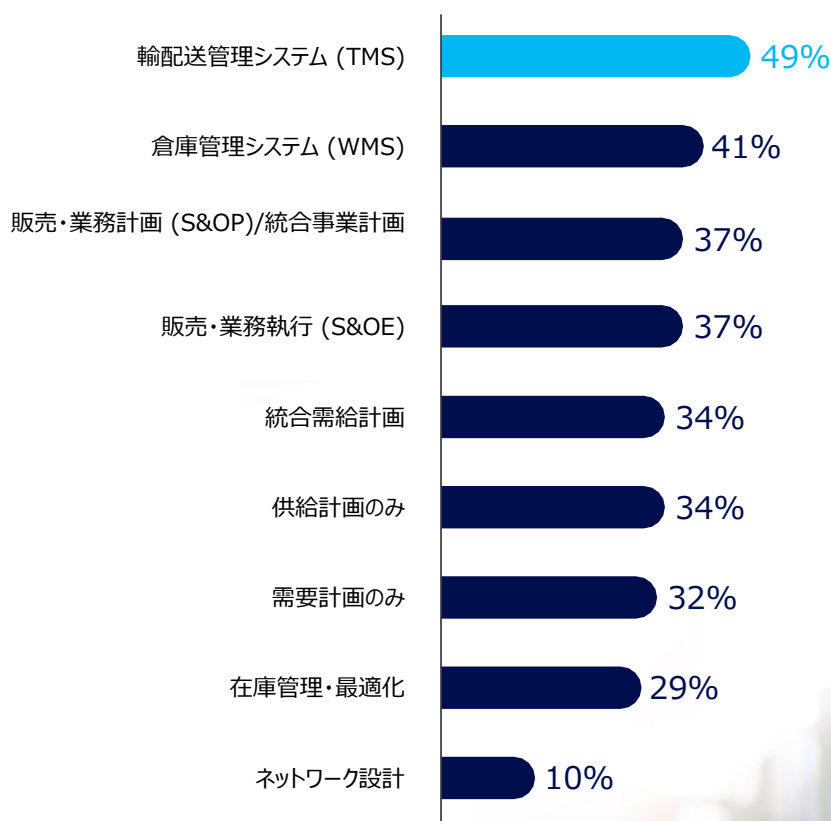
将来的には、調査回答者の大多数 (86%) が AI、ML、生成 AI への投資を増やす予定であるとしています。また、サプライチェーンの可視性の向上 (幹部の43% が指摘)、自動化の推進 (40%)、サプライチェーン計画の最適化 (35%) の手段としても、高度なテクノロジー全般に注目しています。



将来の投資対象として 最も重視される機能分野

サプライチェーン全体で投資の対象となっている機能分野という観点から見ると、ロジスティクスの実行に高度なテクノロジーを導入することが主に重視されています。調査参加者の約半数（49%）が輸配送管理システム（TMS）への投資を計画している一方、41% は高度な倉庫管理システム（WMS）の導入に関心を寄せています。

高度なテクノロジーによる計画プロセスの最適化も、主な重点分野の1つです。サプライチェーン担当幹部が導入を目指している機能は、販売・業務計画/統合事業計画（37%）、販売・業務執行ソリューション（37%）、統合需給計画機能（34%）、スタンドアロンの供給計画ソフトウェア（34%）、スタンドアロンの需要計画ソフトウェア（32%）です。



本調査について

2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイは、Blue Yonder の提供により、2024年3月1日から15日にかけてサードパーティプロバイダによって実施されました。この調査では、製造、小売、サードパーティロジスティクス、政府機関の経営幹部および上級幹部600人以上から回答が得られました。回答者は、米国、英国、DACH（ドイツ、オーストリア、スイスを含む）、フランス/ベネルクス（ベルギー、オランダ、ルクセンブルクを含む）でサプライチェーン戦略、ロジスティクス、計画、製造オペレーションを担当しています。

結論： テクノロジーによって実現する 明るい未来

Blue Yonder の2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイによって明らかになったように、世界のサプライチェーンは途方もないプレッシャーに直面しています。

たとえば、混乱の増加、コストの高騰、持続可能性へのプレッシャーの増大が挙げられます。サプライチェーンとロジスティクスの部門からのチームに、ここまで高い関心が寄せられたことはかつてありませんでした。

それでも、高度なテクノロジーによって、サプライチェーンが一躍スポットライトを浴びる準備は十分に整っています。サプライチェーンの専門家として、AI、ML、その他の最先端機能を活用して、

すべての意思決定、すべての日常業務プロセスをサプライチェーン全体にわたって最適化し、より低いコストでより優れたサービスを推進することにより、私たちが輝くときが来たのです。企業の既存のテクノロジー投資からは驚くべき利益が生まれており、サプライチェーンのデジタル化への投資を増やしているという幹部の回答は心強いものです。

デジタル変革への取り組みを一緒に歩むパートナーをお探しなら、ぜひ Blue Yonder をご検討ください。2024年サプライチェーン・エグゼクティブ・サーベイの参加者と同様に、Blue Yonder も高度なテクノロジーの未来に賭けており、3年間にわたってイノベーションに10億ドルを投資しています。

どのような未来のビジョンをお持ちであろうと、Blue Yonder は最先端の機能、卓越したサービスとサポート、投資の回収を早める革新的な提供モデルによってそのビジョンの実現をご支援します。

詳しくは
blueyonder.com/jp/ja
をご覧ください。

